

交叉点24

明高24回生通信

20th/Jan./2013

「喜寿を迎えました」

高德雄三



高德先生

CLASS 6

昭和二十九年三月、六回生として明高を卒業してから北海道十勝で三年の教師経験を経て十六回生が入学する昭和三十六年に明高に帰って来ました。

学年主任は佐々木賢祐先生、国語科主任慶野正次先生、野球部長渋谷久雄先生、すべて私の恩師でした。先生方の八割くらいが私の高校生時代に居られた先生方で、「成績優秀」でなかった私であるにもかかわらず、温かく迎えて頂き、感謝あるのみでした。

当時まだ若かった私は、弟や妹のような生徒に、遠慮無く自分をぶつけて接していたように思います。

明高での十九年の勤務はあっという間に過ぎました。その間三十回生からは総合選抜の生徒を迎え、生徒指導（生活指導）担当として自分なりに努力したのも懐かしい思い出です。その後新設の須磨東高校、神戸高塚高校の学校づくりに関わり、西宮北高校、姫路東高校を経て平成八年三月尼崎

西高校で三十八年間の公立高校勤務を終わりました。続いて、平成八年四月から赤穂に開校する関西福祉大学の開設準備室に勤めましたが、この大学の開学後は明高からもかなり進学しています。

二十年ほど前から、かつての明高お同級生の会（通称明六会）の世話をしています。卒業五十周年、五十五周年、そして今回は喜寿記念同窓会を実施しました。幹事が手分けして同級生全員の消息を尋ねて案内状を出し、七十七歳という成人している孫もいる年代が、約八十名出席する盛会となりました。

「ふるさとは遠きにありて思うもの」母校への思いも、或る年齢を重ねた後に改めて感じたり、新しく生まれたりするもののようです。在学当時は本人が自覚していなくても、母校とは草木を育てる土壌のような役割を果たしていて、それぞれの人格形成に重要な意味を持っているのでしょう。

私たちの同級生は、約二割が物故者となっています。今回、喜寿の会に出席できた健康と環境に感謝しながら、時を忘れる楽しいひと時を過ごしました。

皆さんの「交叉点」は大切な集いですからこれからも長く続いてほしいと思います。世話役は大変ですが、参加者協力者が増え、内容も充実するよう祈っています。

「ええ！もう還暦？」

えらいこっちゃ！！」

元3年5組 濱口義信

5組というよりは野球部OBの濱口義信です（などという「お前が代表みたいに言うな！」という仲間の顔が浮かんできますが・・・）。



数か月前に、今年の学年同窓会を延期するという知らせをいただいて、とてもショックでした。何がショックかというと「来年は還暦だ」という文面で

した。まだ心の隅にもなかった、「還暦＝老人」という現実を突き付けられ、まだ心の準備をすることも考えていなかった僕は狼狽してしまいました。その時から、この事実は僕の心にずっと引っかかったまま今に至っています。自分で分析してみると、僕の狼狽は2つの理由からきています。ひとつは「もう若くない」ということを自覚しなさいと言われたこと、もう一つは「職業生活という人生のステージで自分は何を成し遂げたのだろう」という自らへの質問と、「そのまとめをすることを考えなくてはならない」という課題に直面したからだと思います。

高校を卒業してから、高知大学、筑波大学（大学院、準研究員）、四国学院大学（香川県）を経て、現在の同志社女子大学に勤めて27年が過ぎました。2000年には「現代社会学部」を、そして2004年からはこの学部の新設した「現代こども学科」の設立に関わり、10年目を迎えようとしています。この学科は、「現代社会の諸問題の一つの焦点であるこどもの問題を総合的に探究する」ことを目指し、問題解決の有力なツールとして「小学校教員養成課程」を加えたものとして発足しましたが、2009年には「幼稚園教諭」そして2012年からは「保育士養成課程」も追加しました。大学生の体育を教える教員から出発して、今では乳児の発育・発達まで仕事の範囲が広がってしまいました。おかげで、ろくに子育てに参加しなかった僕が、孫たちの様子を見て教材研究をしている毎日です。

このような体育指導と並行して、「スポーツ哲学」「スポーツ社会学」という分野を研究しており、「スポーツによる人間形成の諸側面」と、「柔道の国際化に伴う文化的変容について」などを研究テ

ーマとしています。

結局、日々の生活に追われて、これらの指導や研究の成果をきちっとまとめ終わっていないので「還暦」を迎えるという宣言？を聞いてうろたえたのだと気づかされました。定年は65歳なのでもう少しあります。ちょっとペースを上げてしっかりと頑張りたいと思います。警鐘に感謝します。

「思えば遠くに来たものだ」

澤田まゆみ（旧姓・苗村）



明石高校を卒業して40年を経て、先日の河合氏からの突然の電話での投稿依頼には本当に驚きました。58歳から一気に10代の頃に舞い戻ったかのような眩暈に似た感

覚を持ちました。

私は関西を離れて早35年になり、人生の大半は東京での暮らしになりました。

明高の同級生の知人はこちらでは山口敦子（旧姓・奥田）さんのみで、その他の方とはどなたとも交流がありませんので、同級生の方の近況は何も知りません。

24回生の皆さんはお元気でしょうか？

本当にお久しぶりです。

私は毎日元気に楽しく暮らしています。

まずは明高卒業後の私のこれまでを簡単にお話します。

高校卒業後は全日空に就職して約4年間勤めたあと、ロンドンに1年間留学しました。

そこで知り合った男性と結婚、それが今の主人です。私が23歳の時です。

主人も大阪の出身ですが、東京・新宿で事業を立ち上げたので、結婚とほぼ同時に東京での生活に

なりました。結婚当初は主人が立ち上げた旅行会社をしばらく手伝い、その間に長女が生まれ、3年後に長男と二人の子供に恵まれました。

子供が小さい頃は近くに親戚や知人もなく、文字通りの孤軍奮闘の毎日でした。今、思い出してもこの30代前半が私にとって今までで一番辛い時期だったと思います。関西にいれば親も姉も友達も近くにいるのにと何度思ったかしれません。

二人の子供の子育てと、仕事一途の主人のフォローに明け暮れた30代から40代前半でした。

とにかく毎日が必死だったように思います。

そして下の子供が高校2年生になった時に、私にもようやく時間が出来たので念願の小さな会社を立ち上げました。これが私の45歳での新たな出発でした。

主人の会社は大きく成長し、今では社員数が数千名の東証一部上場会社になりました。

また私自身が立ち上げたクルーズ専門旅行会社「クルーズプラネット」は14年経ち、社員数50名の中堅どころですが自分ではまあまあ良くやっただと思っています。

現在はフルタイムでの仕事が体力的にも時間的にもきつくなってきたので、週1回出社のまったりした会長職です。

また子供達も大人になり、娘も息子が結婚して、今では3人の小さな孫たちにも恵まれています。

ざっと書くとこんな感じですよ。

私は学生時代はあまり成績も芳しくなく、これといった取柄はないのですが、幸いにもいつも周りの人に恵まれてきました。これは本当に有難いことです。

東京のそれもど真ん中の渋谷に住んで15年になりました。

父が亡くなり、母もケアハウスにお世話になっているので関西に帰る機会は以前より減りました。

でも年齢を重ねるにつれ、何かの折にふいに明石を思い出す事があります。

明石高校の校舎、個性豊かな先生の面々、訳の分からなかった（単に私が理解出来なかった）物理や数学の授業などは、辛かったはずなのになぜか懐かしいのです。今でも一年に一回位ですが数学の解けない問題を授業中であてられて冷や汗をかいている夢をみる事があります。本当に情けない話です。

この40年は私にとって濃厚な時間の積み重ねでした。主人と同じレベルで会話を出来るようにと必死に本を読み勉強しました。また会社経営の辛さや楽しさも嫌というほど味わいました。子育ての苦労もしました。多分、多かれ少なかれ皆さんも経験した事とは思いますが、それは地を這うが如くの地道な毎日だったように思います。そしてやっとここまで来たと感じています。

本当に「思えば遠くに来たものだ」と感じています。

私達はもうすぐ還暦ですね。

60歳にもなれば、全てを達観して迷いなく人生を生きていると想像していたのに、相変わらずあれやこれやと迷ってばかりいる自分があります。孫も出来れば“祖母”と呼ばれますが、これも全く実感が伴わないのが本音です、困ったものです。

今までは人の人生（つまりは主人や子供達）に合わせて生きてきたので、これからは自分のやりたいことを第一義に考えて時間を大事にして、悔いる事のない人生を送りたいと思っています。

「明るく元気に、前向きに」が我家のモットーです。

皆さんもどうぞお元気で！

またお会いしたいと心から願っています。

平成24年11月吉日

「ミャンマー訪問記」

旧3年9組 松田千尋



24回生の皆様、ご無沙汰しております。旧3年9組の松田です。今回は、急遽訪問することになりましたミャンマーでの僅かな見聞録です。

事の起こりは、昨年9月のことです。地元ロータリークラブの仲間が、ミャンマーに学校を作ろうと言い出しました。これが発端です。ミャンマーは、皆様ご存知の通りようやく鎖国を解きました。そしてビジネスチャンスを狙ってたくさんの国々、企業が進出を始めました。学校を作ろうと言い出した仲間の発想は、遙かな将来のビジネスチャンス（というよりは国益）を見据えてのことです。ご存知の方も多いたは、思いますが、この国は大変親日的な国です。この国に限らず、親日的な国は実はたくさんあります。それがはっきりとした形で現れたのが、東日本大震災であることは記憶に新しいと思います。このように親日的な国民をたくさん育てることが大切であると思います。そしてこの国には、他にも可能性があります。そのことを後半でお話しさせていただきますが、まずは旅行の行程と顛末からお話させていただきます。

9月の下旬に計画が持ち上がりましたが、なにせミャンマーラッシュです。ホテルが予約できません。これは、ミャンマーに詳しい関係筋をたどってなんとかクリアしました。私の役割は、航空機の予約です。旅行代理店に頼もうにも、今回参加予定の6名の座席が確保できません。そこで登場しましたのが最近脚光を浴び始めましたLCC（格安航空です）。できるだけ費用負担を少なくという一部のメンバーの要請もあり、私が予約を試みることになりました。タイ航空

やマレーシア航空では、上に書きましたように便数が少なく、座席が確保できません。そこで、エアアジアというマレーシア資本の航空機を使うことにしました。エアアジアのようなLCCは、インターネットでの予約が基本で、旅行代理店が取り扱いません。

そこで、自らエアアジアのホームページを開いて予約手続きを始めました。私がこの役目を請け負ったのには、実をいうと伏せんがあります。今回のミャンマー訪問計画に先立つこと2ヶ月前に、同じ24回生の浅田君から急遽海外旅行のお誘いを戴きました。もともと同じ生物学を勉強しておりましたので、最初旅行先はケニアかタンザニア、はたまたウガンダもしくはギアナ高地かアマゾンにでも行くのかなあと考えていました。ところが、意外にもマレーシアのボルネオだとおっしゃるではありませんか。それも野山に分け入るのではなく、都市訪問です。

お話をいただいたのは7月の初めで、出発は8月1日です。そこで、エアアジアの航空券の予約手続きを始めました。8月には、エアアジアジャパンが営業を始めましたので、ミャンマーに向けての手続きを始めた9月には、日本語のホームページができていました。しかし、7月の時点では英語のホームページのみです。大分単語も忘れていすのと、これまでの航空会社とルールが違いますので、一苦労しました。しかしこの時の手続きで、一応の手順を習得（大袈裟ですが）できました。それと同時に、ミャンマーへの中継点となるクアラルンプールの事情を少し理解できました。

ミャンマーへは、今のところ成田から直行便が出ていますが、全てビジネスクラスです。途中経由するにしても、バンコクが一番便利です。しかし、初めに書いていますように、タイ航空はほとんど満席です。エアアジアは必ずクアラルンプール経由ですので日程が不便ですが、背に腹は代えられません。今回は、6日間の旅程のうちミャンマーは3日でした。マレーシアのクアラルンプールでの出来事は、今回省略させていただきますが、浅田君との旅行のおかげで、ミャンマー旅行では添乗員をなんとか務めることができました。ミャンマー国内は現地の旅行社（日本人経営です）にお任せでしたが、ヤンゴン到着までと、ヤンゴン出発からは私が添乗員でした。個人手配の旅行です。ホテルの予約もエアアジアのホームページからです。飛行機のチェックインもホームペ

ージから事前に済ませます。全員の分のボーディングパスとホテルの領収書（事前決済です）を持っての作業です。実際に飛行機に搭乗するまでと、ホテルの部屋に入るまで全く気が抜けません。おまけに会計まで担当しましたので大変でした。約100万円規模の会計でしたが、日本円、アメリカドル、マレーシアリングgit、ミャンマーチャットの4カ国通貨です。ミャンマーではアメリカドルしか通じませんので頭がこんがらかりました。理屈ではぴったり合うはずですが、数千円の誤差が出てしまいました。

さて、長々と旅行に至るまでのお話をさせていただきましたが、ミャンマーでの印象をまとめてお話をさせていただきます。一口で言って、大変穏やかで真面目な国民性です。大変驚きましたのは、バザールで買い物をした時です。計算は遅いですが、きっちりお釣りが返って来ます。当たり前のようですが、ケニア、タンザニアあたりでは、こちらがしっかり計算していないと誤魔化されます。バリ島やフィリピンでも同じようでした。世界の最貧国の一つだとは思いますが、物乞いがいません。また、多くの発展途上国では、実際の10倍ぐらいの値段をふっかけてきます。3分の1に値切っても相手は大儲けです。ミャンマーではほぼ日本の感覚に近かったです。マレーシアでも今回の旅行では、ミャンマーと同じ印象を受けました。尤もマレーシアは今や東南アジア一番の先進国です。

ヤンゴン市内には、日本の中古車がたくさん走っています。約9割ぐらいです。ほとんどがトヨタです。神戸市バスも阪急バスも走っています。きっと神姫バスも走っているのでしょう。某運送株式会社だの某医療法人社団だのといったワゴンも走っていました。さすがにボンネットバスは見かけませんでした。私たちの修学旅行では、上高地にもボンネットバスがたくさんあったのですが、面白かったのは、バスのドアのところに「出口」と書かれています、上下が逆さまで。まるで、「となりのトトロ」に出てくる猫バスみたいで微笑ましかったです。11月から2月ぐらいまでが乾

季で、比較的涼しいはずなのですが、今回訪問した11月初旬でも想像以上に蒸し暑かったです。最高気温32度、湿度80パーセントですから、梅雨明け前後の日本と同じです。40度ぐらいいはあろうかという9月のエジプトのほうが余程快適だと思います（ピラミッドの中は別）。エジプトの湿度はほとんどゼロですから。

さて学校ですが、ミャンマーでは公立学校は比較的充実していますが、僧院が経営する学校すなわち日本という寺子屋の設備が不十分です。特に尼寺が遅れています。それでも寺子屋の存在により、ミャンマーの識字率は90パーセントに達しています。この教育水準の高さと、真面目さがこの国の将来性を感じさせます。私たちは、この尼寺が経営する学校の充実を考えています。約500万円でひとつの小さな学校が建設できます。ロータリークラブにて寄付を集めて建設しようというものです。その場所を探すために今回は訪問しました。

ただ、建物を作ってもソフトの充実が必要だと思いました。既に他の団体によって建設された学校も見学しましたが、とにかく汚いのです。掃除がなされていません。掃除が全てだと改めて思いました。24回生で教職に携わっておられる皆様、幼稚園から高校まで、1に掃除、2に掃除、3、4、がなくて5に掃除ぐらいに指導して欲しいと心から思います。かくいう私も掃除が苦手で、家は屑籠状態です。年末年始は本当の大掃除です。

ミャンマー訪問の最後に、現地での政情などをお話します。恐らく皆さんの最も高い関心はここにあるのではと思います。結論から言いますと、極めて穏やかです。軍事関係の車両は全く見かけませんでした。治安も安定しているようです。ナイロビなどでは、ホテルの玄関などに必ずライフルを持った警官がいます。マニラでもそうでした。恐らくヴェルサイユ宮殿、ルーブル、コロッセウム、アルファブラなどのほうが怖いのではないのでしょうか。スー チーさんの家も外からではありませんが見学しました。なんの警備もありません。長年軟禁状態だったということですので、狭い部屋に閉じ込められているイメージを持っていまし

た。ところが、1辺200メートル以上、明石高校全部ぐらいの家です。藤原不比等か長屋親王（長屋王ではありません）の邸宅もかくありなんでしょうぐらいの大邸宅です。精神的にはともかく、およそ軟禁という状態ではなかったと思います。

以上長々と書き連ねてきましたが、今回僅か3日間でのミャンマー訪問でした。

さて、中村君から代わって5回原稿のご依頼を続けてきましたが、今回でその役目を終えさせていただいて、どなたかにバトンタッチしたいと考えています。勿論、原稿の依頼などの協力はこれからも頑張らせていただきます。しかし、まだ一度も投稿のない24回生がたくさんいらっしゃいます。その方々に登場していただくためにも、また別の視点にたったかたの原稿依頼が必要になってくると思います。せつかく長きにわたり続けている交差点ですので、途絶えさせずに続けたいと思います。是非とも手を挙げていただきたく願います。

私も依頼があれば、たまには投稿させていただきますので、よろしく願います。

「ありがたいつながり」

佐伯敏裕



この夏、旧3年6組のクラス会がありました。幹事さんのはからいでお盆の週に入る直前の土曜日であった為、遠くからも参加していただき、賑やかで本当に楽しいときを過ごすことが出来ました。

担任の高徳先生は喜寿を迎えられたとのことで、誠におめでたいことと皆で喜びあいました。喜寿とはいえ、今も変わらず明高や地域の少年達にスポーツの指導、地元や各団体のお世話等、いろんな方面でのご指導、生涯現役を實踐しておられます。いつまでも若々しくお元気でいてくださることに嬉しい思いを致しました。

僕は24回生の学年団に所属されていた松本良信先生の御指導で高校の書道教諭をしています。勤務校としては4校目になりますが、平成4年より明高に勤めさせていただいています。あっという間に20年が過ぎてしまいました。20年のあいだにはいつもお世話になっている河合昭彦さん、嘉さんのお嬢さんを担任させていただいたり、在校生の為にと各分野で活躍しておられる24回生の方々に講師として講演等に顔を出させていただいたり、創立80周年記念誌の制作を担当させていただいたり、今は明石清水高校の校長となられた藤井淳一県教委主任指導主事（当時）に訪問指導をしていただいたりしたことに御縁を感じ、特に僕より先に明高に着任しておられた福井尊徳さんとは同じ学年に所属させていただいて、色々と力になっていただきましたことも今は良い思い出です。緊張感の中にも母校だからこそ味わえる経験をたくさんさせていただいています。

さて、明高は来年創立90周年を迎えます。それを祝うかのように母校は大いに盛り上がっています。野球部が63年ぶりに春の近畿大会に出場し、あの智弁和歌山に勝利、見事3位に輝きました。そして女子ハンドボール部は昨年今年と連続で全国ベスト8入りを果たし、剣道部女子も全国大会の個人戦で3回戦まで進出。ワンダーフォーゲルの山岳競技と男子ソフトボールから国体出場選手が出ました。文化面でも百人一首かるた競技の全国大会への出場者がおり、生徒会を中心として各部活動が本当によく頑張っています。また一方、ここ数年は近隣の小学生にスポーツ・文化の両面で指導をしたり、老人ホームへ心のこもった季節の挨拶状を送ったりと、地域の方々とも幅広く交流し、大変喜んでいただいています。

明高創立90周年の記念式典は来年の5月25日（土）を予定しています。会場は市民会館です。この準備に関しても何かにつけて市役所自彊会会長の西和彦さんにお世話になっています。24回生のつながりのありがたさをいろんな所で感じながら、まずは定年の日を迎えるまで、毎日783本程度抜けている髪の毛を気合いでくい止める努力を

しつつ、元気で頑張りたいと思っています。

「来年は還暦。だよね。」

老いては子に従え と言うけれど、
松尾和彦



4月に父が、7月に母が
永眠しました。

通夜、葬儀、・・・四十
九日、百ヶ日法要、×
二人分 やりました。

寺は浄土真宗正徳寺。
住職は二階堂さんの弟
(明高で私の嫁と所謂
同級生)。

父享年満94歳、母88歳。

高齢化社会のなかでも相当長生きした方でしょうが、二人とも子の言うことなど殆んど聞いてくれませんでした。屋根の繋がった家にずっと住んでその間も、昨年11月に入院した後も、父はまったくジコチューで。母の方は認知症で5年程前から施設に入居してそこから入院というパターンでしたが、施設に行ったときにはすでに言葉を失って久しく、言うことを聞くとか聞かんとかいうレベルはとうの昔に過ぎていました。

もっとも、母の認知症はかなり特殊なケースだったようで攻撃性や放浪性は出ず、施設では穏やかな時を過ごしてくれたと思っています(これは感謝しています)。

そんなこんなで、親のような年寄りにはなりたくない。子供たちに迷惑を掛けたくない。とシミジミと強く思ったものです。

ところで、8月に膝をやりました。激しい運動をやったわけでもないのに痛みがひどくなり医者にかかるとう水が溜まるとのこと。マイクロウェーブをあてて治療するも治りが遅い。11月末ようやく水は抜けた模様。医者はそもそもトシで関節が磨り減っているためと言って、今の関節の能力をこれ以上低下させないようにはどうすればよ

いかを説明しようとする。装具を使って減っている側の負担を減らそうとか(延命とも言いよる)。長男(一応整形外科医)に聞いても「OVER USE」の一言。

中村先生には聞きたくもない。「当たり前」というに決まっている

でも本人的には3月に雨の中篠山マラソンを走って酷使した後十分休ませなかったことが悪かっただけ、と思おうとしている。で、痛みが消えてくると、また体を動かそうとしている(また酷使しようとしている?)。まだいろんなフィジカルな部分で自己ベスト更新が可能と理由もなく信じている部分があり、それはそれで楽しくもある。(もちろん記憶力を除く知的な部分でもまだいけると思ってるんやろな)

息子達は「仕方のない奴」と思うやろけど、もう少し勝手をさせてもらおう。

今や後期高齢者にあらずんば老人にあらず、という説もあるし。

でも来年は還暦。有難いことに勤務先の企業年金は支給開始となるし、再来年には厚年のいわゆる報酬比例部分も支給開始となる。年金受給者はやっぱり老人やろな。

我らの世代より少ない人数で社会と老人を支えなければならぬ息子達の世代の手をできるだけ煩わせないようにしながら体が動く間は自活して、出来なくなったらよく言うことを聞く「可愛い爺さん」になりたいと思っではいるが。

それはなかなか難しそうです。

ではまた。

「還暦記念同窓会にむけて」

松尾(三木)衛子

前回の同窓会(北京オリンピックの年でした)の折、次回同窓会のお世話係を仰せつかりました。



昨年のロンドンオリンピックの年にしたのか、今年の還暦を記念した同窓会にしたのか、幹事の方たちと相談しました。今回に関しては、めったにないことなので1年ずらし、還暦記

念同窓会とすることにしました。還暦とは、干支が一巡し、起算点となった年の干支に戻ることを指し、本卦還りともいうそうです。よくまあここまで無事に生きてきたなと感慨を持って振り返ったりもする年代に入りましたね。それから、体のあちこちに気になるところが出てきて、後の人生についても考えるようになって来ているのではないのでしょうか。

また、仕事をしている方にとっては、多くの方が定年退職という時期を迎える年にもなります。私も、小学校に勤務していますが、子育てをしながら、仕事をするという事は、悩みの多いことでしたし、組織の中で仕事をするという事は、人間関係のストレスも多く、仕事を続けることがなかなか大変に思えた時期もありました。それが、もう一年で終わりと思うと、今までつながってきた社会というものと縁が切れることに少々寂しさを感じています。やはり、還暦というものは人生の大きな節になるものなのでしょうね。

そんな人生の節ともなる還暦を前向きに喜ばしく、高校時代を共に過ごした皆様と共に迎えたいと思います。赤いチャンチャンコを来て集まるわけにはいきませんが、装いのどこかに赤をあしらって集まるというのはどうでしょう。新調していただく必要はありませんのでご心配なく。幹事としても、懐かしい同窓会にするために、あれこれ工夫を凝らしたいと思っています。高校時代の写真を見ながら、当時を思い出してみませんか？どんなことが起こった時代だったのかしら？どんな音楽を耳にしながら過ごしていたのだろう？そんな懐かしい歌をみんなで声を合わせて歌ってみるのもいいかもしれません。思えば、懐かしのメロディーの世代になってしまいましたね。

5月3日金曜日5時より舞子ビラで行います還暦記念同窓会に、一人でも多くの方が集っていただけますよう交叉点の紙面をお借りしてお願いいたします。同窓会のご案内は、3月初旬にお届けできるよう準備をしています。今は、明石から遠く離れてお住まいの方も、是非この機会に帰省なさっていただきたいと思います。宿泊は、舞子ビラの方でお世話させていただきます。ご希望の方は、還暦記念同窓会の申し込みの際、宿泊希望に○をおつけくださいね。幹事でお世話させていただきます。

では、5月3日にお会いできるのを楽しみにしています。

事務局からのご案内

・「還暦同窓会のお知らせ」

5月3日（日）舞子ビラにて5年振りの同窓会が開催されます。詳しくは代表幹事の松尾（三木）衛子さんより往復ハガキにて連絡が届きますのでよろしくお願いいたします。

・「東日本同期会（仮称）のお知らせ」

東京での24回生同窓会の開催を関東在住の何人かの方に連絡をしてご検討いただいております。今年の前半中には開催したい、とのことですので東日本に在住の方々はお楽しみにお待ちください。

24回生全員にはお知らせしませんが興味のある方は河合までお問い合わせ下さい。

・住所不明者についてのご願い

住所が不明となっている方々の情報提供をお願い致します。下記連絡先までご連絡ください。名簿の管理は、手作業で行っております。ミスがありましたらこれもお知らせください。

1組：八木義孝 定成幸子 泉谷恵子

2組：安藤悦郎 竹村郁子

3組：北田雅福 高橋英樹 土島日出彦 藤永みどり 秋定和子 平野由美子 鈴木佳子

4組：奥野好隆 田村政一 仲井 透 大泉尚子

山口哉子

5組：大村直樹 長谷川俊広 山本和彦 平山
登志子 中川ゆかり 魚住篤子

6組：加藤明江 米谷嘉子

7組：足立真知子 近藤恵子 富岡るみ 森江真
岐子 盛井雅子

8組：諸岡宗司 山崎清孝

9組：魚住一裕 加藤和宏

10組：久山哲広 西森正二 村上正彦

2012年11月現在（敬称略）

《連絡先》 事務局 河
合昭彦

〒674-0051 明石市大久
保町大窪 1000-1

Tel 090-8659-5628

FAX 078-934-1667

メー ル



kawai@dokikai.net

注）河合に連絡いただいた住所はサラト（同窓会
事務代理会社）に連絡しますが、サラトに連絡さ
れた住所は河合には届きません。

・24回生のページのご案内

明高24回生のみで御覧頂ける会員制のサイ
トを立ち上げております。

<http://m24.dokikai.net/>

このURLを開いていただき、右側の「ロギ
ン」の下にある「新規登録」をクリックいただ
くと「ユーザ登録」画面が出ます。こちらで登録
いただき、河合が同期生であることを確認いた
しましたらすべてのコンテンツを御覧頂けるよ
うになります。

現在アップしております、24回生の卒業アル
バムのほか、同期会のスナップ等もアップする
予定ですので、この機会にぜひご登録ください。

・メールアドレスをお知らせください

携帯、PCを問いません。頂戴したメール
アドレスは、同期会の連絡用に使用していただ
きます。

下記のアドレスにメールを送っていただ
ければ登録させていただきます。

m24@dokikai.net



*QRコードです。携帯で
ご連絡にご利用下さい。（機種に
よっては使えません）

「編集後記」に替えて「お願い後記」

高德雄三先生、突然の原稿依頼にもかかわ
らず、お忙しい中、早々に原稿を頂戴し、あ
りがとうございました。

今回、諸般の事情から10月19日に急遽、
私、河合が原稿の手配をすることとなり、
執筆をお願いした皆様にはお忙しい思
いをさせ、申し訳ありませんでした。

二回目、三回目という方も多く恐縮
いたします。皆様、原稿は常に募集中
です。引越された、転勤された、お孫
様の話題等々、なんでも結構です。

通常の間取りとしては、毎年、11月
一杯を目途に集めた原稿を中村（守）
さんがデザインして下さり、大西（和）
さんと私で印刷し、2月の理事会で
サラトさんに渡します。

11月中くらいまでに、メールもしく
は郵送にて原稿をいただければ掲載
できます。

・編集長交代のお知らせ

松田千尋さんをお願いしておりました
「交叉点24」の編集長ですが今年でお
やめになるとのお申し出がありました。
松田さんの投稿にも書かれてお
りますが、やってみようという方が
おられましたら河合まで御連絡を
いただけますでしょうか。繋がり
を広げてゆく上でも、任期は二年
から三年くらいでどうかと考えて
おります。

交差点会計

日付	項目	入金	出金	残高
2012/1/1	繰り越し			¥76.391
2012/3/6	松谷マキコ寄付	¥5.000		¥81.391

